

北陸新幹線関係

埋蔵文化財包蔵地調査報告

H S -11 · H S -12 · H S -13

2000年3月

財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所

序

北陸新幹線は長野から上越を経て、日本海沿いに富山、金沢、福井を通り米原に至り、東海道新幹線に通じる新幹線建設計画です。これからの北陸の発展、活性化をめざす時には高速交通網の整備・充実が大きな課題となっています。このような地元の要望を受けて部分着工ではありますが、新幹線建設が進められています。

当調査事務所では建設計画に伴い平成8年度に小矢部市下川原遺跡の試掘確認調査を実施しました。また、今年度は、新たに3カ所で試掘確認調査を行いました。

本書は、下新川郡入善町HS-11・12、朝日町HS-13埋蔵文化財包蔵地における遺跡の範囲や遺存状態を把握するために実施した発掘調査の結果を報告したものです。調査の結果、朝日町では古代・中世の竹ノ内Ⅱ遺跡の一部が確認されました。この調査の成果が今後の遺跡の理解や研究の一助になれば幸いです。

最後に、今回の調査にあたり格別のご協力とご配慮をいただいた関係各位に深く感謝申し上げます。

平成12年3月

財團法人富山県文化振興財團
埋蔵文化財調査事務所
所長 桃野真晃

例　言

- 1 本書は平成11年度に入善町小押戸、新屋地内及び朝日町南保地内の北陸新幹線建設予定地で実施した埋蔵文化財包蔵地の試掘確認調査の報告書である。
- 2 調査は富山県教育委員会の決定に基づき、財團法人富山県文化振興財團が日本鉄道建設公団から委託を受けて実施した。
- 3 調査は財團法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所が実施し、調査員は次のとおりである。
　調査第二課課長狩野　睦、同係長酒井重洋、同文化財保護主事野口雅美
　調査第一課文化財保護主事三島道子・金三津英則
- 4 本書の編集は酒井が担当し、執筆は酒井・三島・金三津が行った。
- 5 出土遺物及び記録資料は、当埋蔵文化財調査事務所が一括して保管している。

目　次

序	
例　言	
目　次	
I　位置と環境	1
II　調査の経緯	1
III　調査の結果	4
1　H S - 11遺跡	4
2　H S - 12遺跡	4
3　H S - 13遺跡	4
引用・参考文献	9
写真図版	
報告書抄録	

図・表目次

第1図　調査対象地と周辺の遺跡	2
第2図　H S - 11・12トレンチ位置図	5
第3図　H S - 13基本層序模式図	6
第4図　H S - 13トレンチ位置図	7・8
第1表　調査結果一覧	1
第2表　調査対象地と周辺の遺跡一覧表	3

I 位置と環境

北アルプスから流れ下り日本海に注ぐ黒部川は、富山県東部最大級の扇状地を作り出している。暴雨川として知られる黒部川扇状地の水田化が進められるのは、幾筋にも分かれた支流を現在の河川に統合する治水が行われた江戸時代以降のことである。今年度調査の対象となった黒部川右岸は、扇頂部から海岸線にかけて標高500mから250mの丘陵が東側に壁のように連なり、その山裾に河岸段丘が発達してみられる。丘陵からは、舟川と小川が流れ出しており、複雑な地形の複合扇状地を作り出している。この山裾や上位段丘、中位段丘に沿って縄文時代や中世の遺跡が立地する。中位段丘の縄文遺跡には上部で県指定史跡愛本新遺跡・坪野遺跡、端部で国指定史跡不動堂遺跡・下山新遺跡・柳田遺跡などが知られている。また、海岸までの丘陵部には舟見城・横尾城・宮崎城などの中世山城が築かれている。また、扇状地北東部を流れる舟川や小川に面する低位段丘は中世以降、比較的安定していたようで集落をはじめ城館や寺院跡なども散在する。

また、古代には現在の泊付近に北陸道の佐味駅が設けられており古くから越後への交通の要所として栄えていたようである。この泊からは東の山沿いに入善町舟見・守奈月町愛本を経て黒部市音掛へ続く北陸道の迂回路があり、この道沿いに集落や山城が作られたようである。黒部川扇状地には古代・中世の莊園がいくつかあったとされるが、比定地は不明である。右岸では、現在の黒部市付近に黒部莊、現入善町付近に入善莊、また莊園莊家跡として国の指定を受けたじょうべのま遺跡を東大寺領「丈母莊」あるいは西大寺領「佐味莊」、「佐味西莊」に比定する諸説がある。また左岸では朝日町南保付近を「佐味莊」に比定する説などがある。

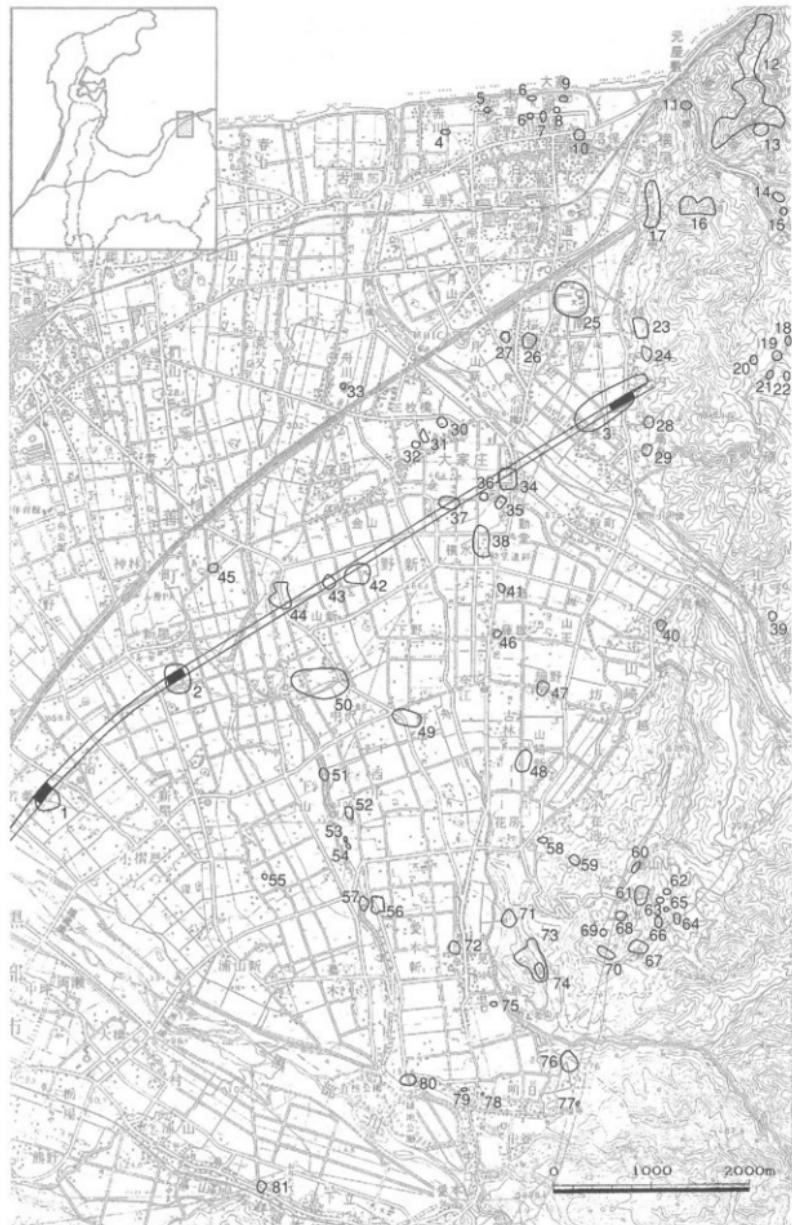
今回調査を行った3遺跡は、HS-11遺跡・HS-12遺跡が黒部川の扇状地の右岸のほぼ中央付近、HS-13遺跡（竹ノ内II遺跡）が小川右岸の山裾に位置している。

II 調査の経緯

昭和60年に新幹線ルートが発表され、鉄道建設公団からの要望を受けた富山県教育委員会文化課（現文化財課）、県埋蔵文化財センターは、路線敷全長約63.9kmのうち約38kmの分布調査を行い周知の遺跡を含め県東部で16箇所、県西部で11箇所の埋蔵文化財包蔵地を確認した。また平成7年に未調査であった黒部市浦川端～舌山間約3kmの分布調査を富山県埋蔵文化財センターが行い新たに周知の遺跡3箇所を確認している。北陸新幹線が計画されてから久しいが、長野～小松間の部分着工が決定され、この決定を受けて地元への用地交渉等が進められ、遺跡の確認調査の要望が県文化財課に寄せられていた。鉄道建設公団、文化財課両者の協議の結果、調査を富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所に依頼することとなった。このため平成8年度には小矢部市下川原遺跡の確認調査を実施した。また平成12年に工事着工されるHS-11～13遺跡の3カ所で埋蔵文化財の確認調査を行うことで協議が整い、実施の運びとなった。しかし、HS-13遺跡（竹ノ内II遺跡）については調査対応の時期から要望地区約16,000m²のうち約5,000m²を対象とし、長野地区は平成12度に調査することとした。調査は平成11年11月10日から11月29日までの期間のうち11日間行いHS-13遺跡で古代から中世の集落を確認し、竹ノ内II遺跡と命名した。以下、調査の概要を記す。

遺跡名	対象面積	調査面積	遺跡の有無	遺跡推定面積
HS-11	4,680 m ²	423 m ²	無	
HS-12	3,420 m ²	753 m ²	無	
HS-13	5,000 m ²	544 m ²	有 (古代・中世)	古代 4,415 m ² 古代・中世重層 600 m ²

第1表 調査結果一覧



第1図 調査対象地と周辺の遺跡

番号	名 称	所 在 地	県道番号	種 別	時 代	備 考
1	H.S - 1 1遺跡	人吉町小畠戸	342019	散在地	古墳?	
	H.S - 1 2 遺跡	人吉町坂原	342018	散在地	近世	
3	H.S - 1 3 遺跡	朝日町竹ノ内・長野	342087	散在地	古墳・中世	
4	鹿野町 I 遺跡	朝日町東草野	343039	散在地	中世	昭和61年試掘調査
5	鹿野町 E 遺跡	朝日町東草野	343038	散在地	中世	昭和61年試掘調査, 平成62年試掘調査
6	大川遺跡	朝日町大延字出池	343037	散在地	平安・中世	昭和61年試掘調査
7	大川東口遺跡	朝日町大延	343036	散在地	中世・近世	昭和62年試掘調査
8	大川東口 II 遺跡	朝日町大延	343035	散在地	古墳・中世	昭和61年試掘調査
9	大川東口 I 遺跡	朝日町大延	343034	散在地	中世	昭和61年試掘調査
10	三面遺跡	朝日町延字中三坪	343033	散在地	鷹文(後・地盤)	江戸(災厄)
11	吉野川城跡	朝日町丸山城・龜山	343027	散在地	江戸(災厄)	
12	吉野川城跡	朝日町丸山城・龜山	343026	山城	平安(災厄)→安土桃山	昭和40年県指定史跡
13	白川分古島	朝日町篠川字上谷	343091	墓	鎌倉	
14	二郎台遺跡	朝日町篠川字上谷	343029	散在地	山城(早・中期)	
15	垂水城跡	朝日町篠川字横井	343030	寺院	中世	
16	垂水城跡	朝日町篠川字横井	343028	山城	中世	
17	使浜遺跡	朝日町篠延字筆の勝	343090	散在地	鷹文(中期)	鷹文(中期)
18	中ノ沢遺跡	朝日町篠川字中ノ沢	343049	集落	鷹文(中期)	
19	水戸八五遺跡	朝日町篠川	343050	集落	鷹文(前・中世)	
20	鳥居平遺跡	朝日町篠川字島谷	343051	集落	鷹文(中期)	
21	水戸B 遺跡	朝日町篠川	343052	集落	鷹文(前・中世)	
22	水戸 C 遺跡	朝日町篠川	343053	集落	鷹文(中期)	
23	通瀬跡	朝日町延	343047	散在地	鷹文(中期)	
24	竹ノ内遺跡	朝日町竹ノ内	343048	散在地	不明	
25	弓削保遺跡	朝日町延	343042	散在地	古墳・中世	
26	西原城跡	朝日町延字保町	343045	城郭	室町(災厄)	
27	吉野城跡	朝日町延字保町	343046	城郭	中世	
28	清水遺跡	朝日町清水	343054	散在地・寺院	中世	
29	高尾城跡	朝日町高尾字大船	343055	城郭	鎌倉(初期)	
30	尾ノ城跡	朝日町三枝橋字船	343050	城郭	室町	昭和51年試掘調査
31	天田口遺跡	朝日町三枝橋	343061	散在地	中世	昭和51年試掘調査
32	天田寺遺跡	朝日町三枝橋	343062	寺院	室町	昭和51年試掘調査
33	白川城跡	朝日町角川	343038	散在地	不明	
34	柳原遺跡	朝日町大家庄字埴田	343063	集落	鷹文(前・後), 中~近	昭和49・平成3年発掘調査
35	小舟北遺跡	朝日町不渡堂	343064	散在地	鷹文(後期)	
36	柳原古島	朝日町柳原	343065	墓	中世	昭和49年発掘調査
37	笄ノ口城跡	朝日町笄ノ口	343088	城郭	中世	
38	八動食道跡	朝日町不疊字二穴	343096	集落	鷹文(中・後期)	昭和49年国指定史跡
39	引手各削穴	朝日町南保字作谷	343036	削窓	室町	
40	石割跡	朝日町延	342057	散在地	不明	
41	猿木一里塚	朝日町猿木	342070	道	江戸	昭和42年町指定史跡
42	古原遺跡	朝日町延字古原	342067	集落	鷹文(中・後期)	昭和52年試掘調査
43	下原新宿跡	朝日町下原山	342068	集落	鷹文(前・後期)	昭和52年試掘調査
44	山原遺跡	朝日町下原山字坂	342069	集落	鷹文(中・後期)	昭和47・48・50・51年発掘調査
45	西原城跡	人吉町小野	342003	散在地	室町	
46	新屋古墳	朝日町新屋字人吉	342071	古墳	古墳	
47	明治城跡	朝日町野野原	342072	散在地	不明	
48	今井城跡	朝日町山崎新・人吉町	342086	散在地	鷹文(中世)	
49	野中城跡	人吉町中野	342005	散在地	鷹文	
50	中原城跡	人吉町中原	342004	散在地	鷹文(中・後期)	
51	下原城跡	人吉町下原	342007	散在地	鷹文	
52	西原城跡	人吉町西原	342008	散在地	鷹文	
53	下原城跡	人吉町下原山字地蔵	342009	寺院	不明	
54	下原八船社跡	人吉町下原山字地蔵	342010	寺院	鎌倉	
55	新屋島跡	人吉町新屋島	342011	散在地	鷹文(後期)	
56	水久新宿跡	宇佐町用木新宿	342001	集落	鷹文(中・後期)	昭和45年福指帝生跡
57	津井遺跡	人吉町下原字津井	342012	散在地	鷹文(中・後期)	昭和40年福指帝生跡・平成元年試掘調査
58	山田花立遺跡	朝日町山崎花立町	342073	集落	鷹文(中世)	
59	碌木山遺跡	朝日町山崎字木山	342074	集落	鷹文(中世)	
60	朝日 A 遺跡	朝日町相山	342075	散在地	鷹文	平成3年試掘調査
61	朝日 B 遺跡	朝日町相山	342089	散在地	鷹文	平成3年試掘調査
62	梅木大平 A 遺跡	朝日町相山	342080	集落	鷹文(前・中世)	平成3年試掘調査
63	梅木大平 B 遺跡	朝日町相山	342081	散在地	鷹文(前・中世)	平成3年試掘調査
64	梅木大平 C 遺跡	朝日町相山	342084	散在地・墓	鷹文・五世	
65	梅木大平 D 遺跡	朝日町相山	342082	墓	小明	
66	舟見松櫛山廬	朝日町相山	342083	庵	江戸(末)・明治(初)	平成3年試掘調査
67	珊瑚山 I 遺跡	朝日町相山	342079	散在地	鷹文(中世)・平安	平成3年試掘調査
68	珊瑚山 B 遺跡	朝日町相山	342076	散在地	鷹文(中世)・平安	平成3年試掘調査
69	珊瑚山 C 遺跡	朝日町相山	342077	庵	小明	
70	珊瑚山 D 遺跡	朝日町相山	342078	散在地	鷹文	平成3年試掘調査
71	舟見屋新宿跡	人吉町下原字尾寄	342013	散在地	鷹文	
72	舟見中学校跡	人吉町舟見	342014	散在地	鷹文(中世)	
73	舟見新宿跡	人吉町舟見字新屋	342016	山城	室町	平成2年試掘調査
74	舟見中学校跡	人吉町舟見字新屋	342015	散在地	鷹文(中世)・我田	平成2年発掘調査
75	舟見中学校跡	人吉町舟見字小堀	342017	散在地	室町	
76	明治 A 遺跡	宇佐町明治	342004	散在地	鷹文	
77	明治 B 遺跡	宇佐町明治	342005	散在地	鷹文	
78	明治 C 遺跡	宇佐町明治	342006	散在地	鷹文	
79	愛參小学校跡	宇佐町愛參	341903	散在地	不明	
80	風見遺跡	宇佐町愛參字風見	341902	散在地	鷹文(後・中期)	
81	下立遺跡	宇佐町下立字立	341909	散在地	鷹文(中・後期)	

第2表 調査対象地と周辺の遺跡一覧表

III 調査の結果

1. HS-11遺跡

調査対象地

調査対象地は入善町小摺戸地内のHS-11埋蔵文化財包蔵地である。調査対象面積は約4,680m²で現況は水田・畑地・宅地である。試掘トレンチは東西方向に6個所設置し、調査対象地の中央の用水を挟んで東側から1~6トレンチとした。

基本層序

調査対象地一帯の基本層序は、I層：灰オリーブ色シルト（現耕作土）、II層：暗オリーブ色砂質土（盛土）、III層：黄褐色砂礫層（地山）である。圃場整備による削平が激しく、削平の影響はIII層上面にまで達している。

調査結果

調査対象地の東部に1本、中央部に2本（現用水路下および宅地の間）圃場整備時に埋没したと思われる谷が確認できた。谷の部分以外は比較的浅く、表土より20~30cm掘り下げた地点で地山の砂礫層に到達する。昭和60年の分布調査時に中世と思われる土師器が採取されているが、今回の調査では遺構、遺物は見られなかった。

2. HS-12遺跡

調査対象地

調査対象地は入善町新屋地内のHS-12埋蔵文化財包蔵地である。調査対象面積は約3,420m²で現況は、水田・畑地・宅地である。試掘トレンチは東西方向に7個所設置し、西側から1~6トレンチ、調査対象地を東西方向に横切る町道中坪石藏線の北部を7トレンチとした。

基本層序

調査対象地一帯の基本層序は、I層：暗灰黄色砂質土（現耕作土）、II層：灰オリーブ色砂質土・オリーブ黒色砂質土（盛土）、IIIa層：褐色砂質土、IIIb層：にぶい黄褐色砂質土、IV層：褐色砂礫層（地山）であり、IIIa・IIIb層は表土より20~50cm前後の深さで見られ、20~40cmほどの厚さに堆積する。圃場整備による削平を受けており、基本的にHS-11遺跡に準ずる層序である。

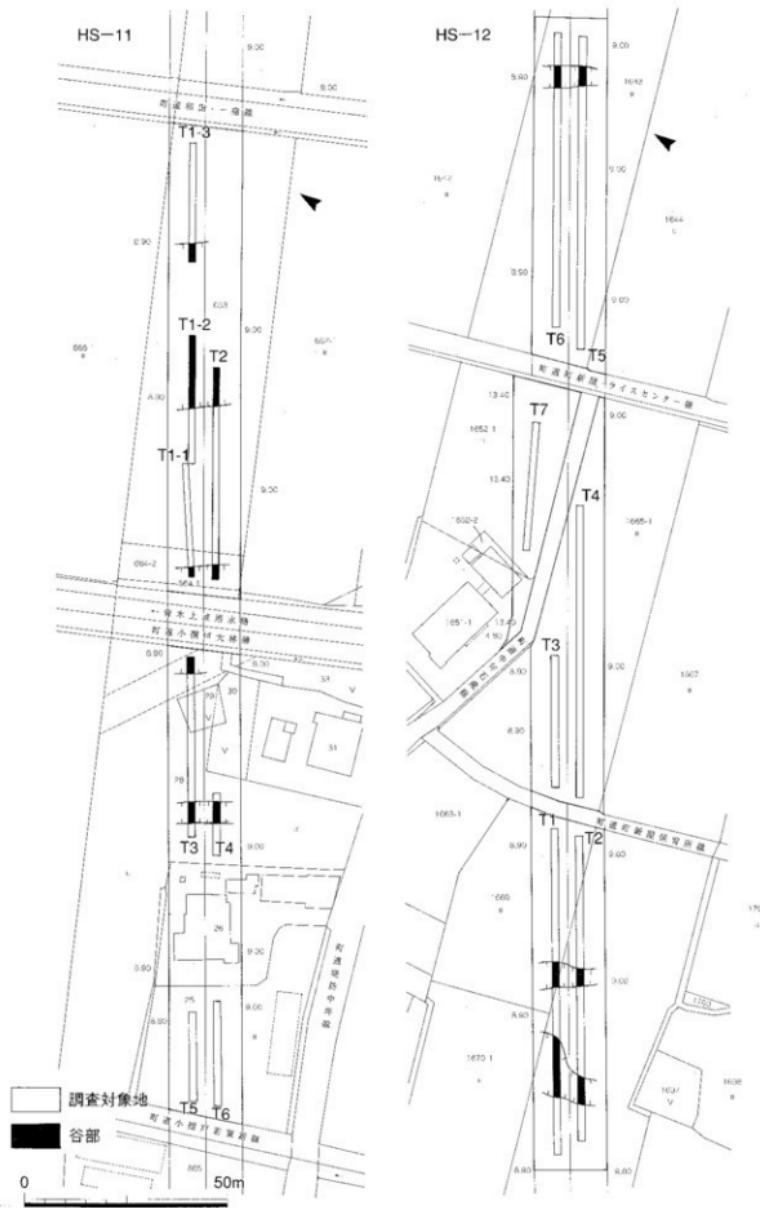
調査結果

T1・T2・T5・T6で谷が検出されたが、いずれも圃場整備時に埋没した現代のものと考えられる。昭和60年の分布調査時に近世陶磁器が採集されているが、今回の調査では遺構・遺物は見られなかった。

3. HS-13遺跡

調査対象地

調査対象地は朝日町南保地内のHS-13埋蔵文化財包蔵地であり、調査対象面積は約5,000m²で現況は水田である。調査対象地は中央の公衆用道路を挟んで南北に分かれ、その東側のすぐ際まで富山県と新潟県の県境となる山地が迫ってきており、そのため地形は東から西へ向かって傾斜しており、現況の水田も段をもって築かれ、調査対象地の西端と東端の比高差は約1.5mになる。当地では昭和38年頃より圃場整備が行われており、その影響は標高の高い東側ほど強い。試掘トレンチは調査対象地



第2図 HS-11・HS-12トレンチ位置図(1:1,200)

の長辺に沿って7ヶ所設置し、中央の道路を挟んで南側より1~7トレンチとした。

なおHS-13遺跡は東西約760mにわたって延びており、南保・長野両地区にまたがる。県道山崎・泊線を挟んで東側が南保地区、西側が長野地区となり、両地区を合わせた全調査対象面積は16,520m²となる。今回の調査はこの内の南保地区を対象としたものであり、長野地区的約11,520m²分については来年度調査の予定である。

基本層序

調査対象地の東側は削平の影響が強く、また湧水が激しいため遺構面の確認ができる地点がみられた。そのため基本層序の設定は調査対象地の西側を中心に行った。

基本層序はI層：暗褐色粘質土（T1~4）、オリーブ黒色粘土（T5~7）（現表土・耕作土）、II層：褐色粘質土・オリーブ黒色粘質土（T1~4）、オリーブ黒色粘質土・黄褐色粘土・暗灰黄色粘土（T5~7）（圃場整備時盛土）、III層：

灰オリーブ色粘質土（中世遺構検出面）、

IVa層：ぶい黄色シルト（古代遺物包含層・古代遺構検出面）、IVb層：オリーブ黒色粘土（古代の谷覆土）、V層：オリーブ黒色粘質土（T1~4）、黒褐色粘土（T5~7）（古代遺構検出面）、VIa層：褐色粘質土（地山）、VIb層：灰オリーブ色粘土（古代以前の谷覆土）となる。III層より上の層は圃場整備時の削平を受けており、東側へ向かうにしたがって残りが悪くなる。

調査結果

調査の結果、古代・中世の溝・土坑・谷などの遺構を検出した。遺物は調査対象地のほぼ全面で出土している。以下遺構・遺物検出状況を各トレンチごとに述べ、HS-13遺跡全体のまとめとする。

T1 V層上面で東側へ向かって落ち込む谷状の遺構を1個所検出した。III層上面から珠洲、IVa層から土師器が出土。

T2 V層上面で1個所の炭化物集中地点を検出した。IVa層から須恵器・土師器が出土。

T3 IVa層上面で東向きの谷状の落ち込みを1個所、V層上面で土坑2基を検出した。III層上面から珠洲、IVa層から須恵器・土師器が出土。

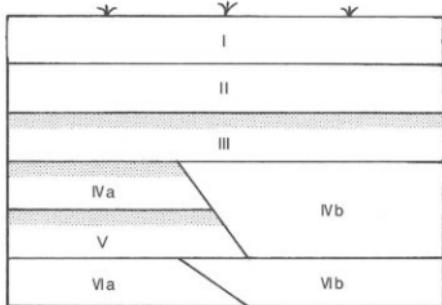
T4 IVa層上面で東向きの谷状の落ち込みを1個所検出した。III層上面で中世土師器、IVa層で土師器が出土。

T5 IVa層上面で東向きの谷状の落ち込みを1個所、土坑1基を検出した。VIa層ではトレンチの西端部付近で東・西それぞれの方向を向く谷状の落ち込みを2個所検出した。IVa層で土師器が出土。

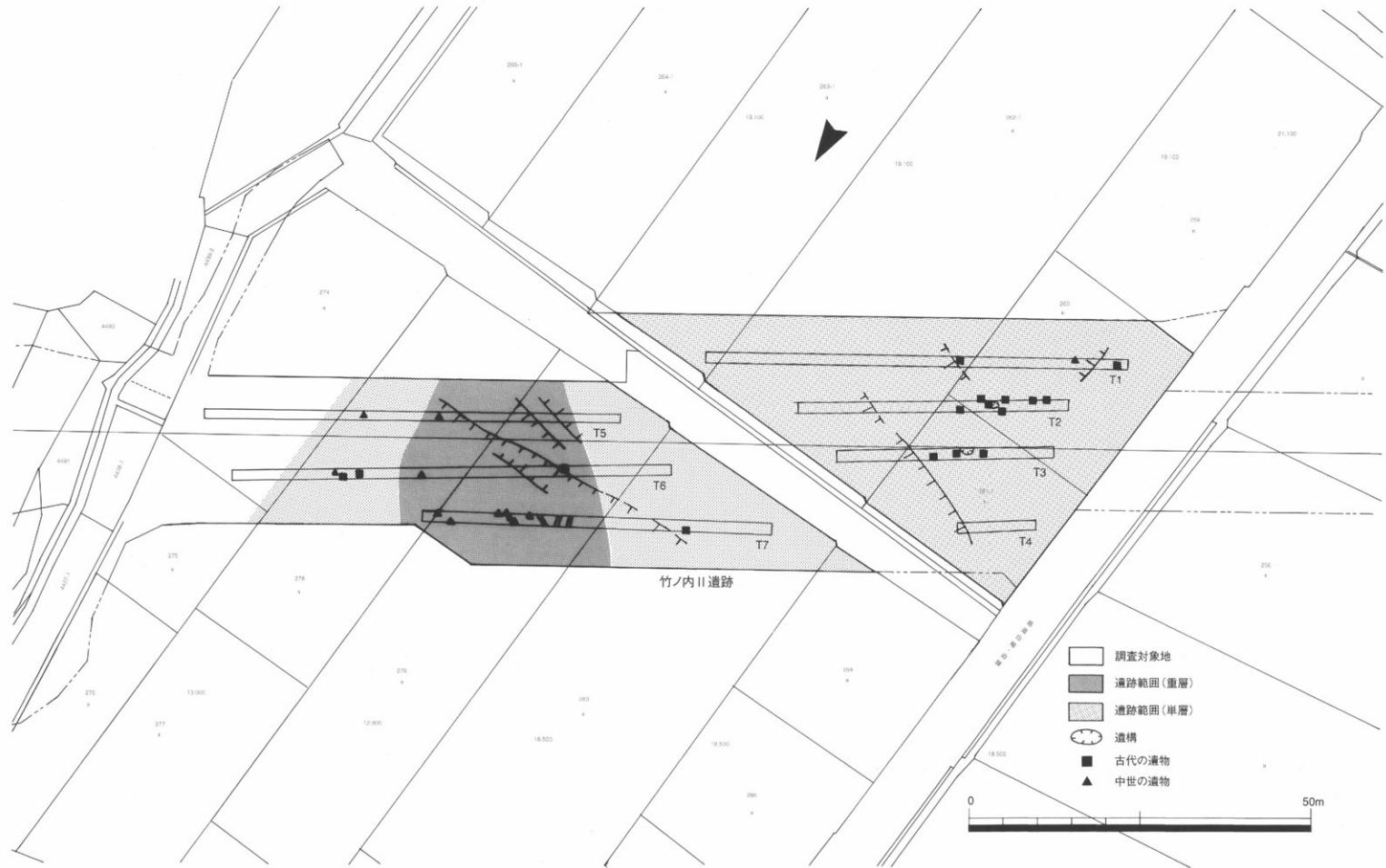
T6 IVa層上面で谷状の落ち込みを1個所確認した。III層で珠洲、IVa層で土師器が出土。

T7 III層上面で中世の溝3条、炭化物の集中地点1個所を検出した。III層上面で珠洲・中世土師器、IVa層で土師器が出土。

谷はT2~7以外の全てのトレンチから検出されており、調査対象地内で5箇所確認できる。T5のVIa層上で検出された2個所の落ち込みは、VIb層の灰オリーブ色粘土を覆土とするもので、古代以前の谷と考えられ、古代の遺構検出面であるV層の堆積時にはすでに埋没している。VIb層がT5



第3図 HS-13基本層序模式図



第4図 HS-13トレンチ位置図(1:500)

東端の盛土直下からも検出されていることから、東側へ向かう落ち込みがここまで広がるか、もう1個所の谷の存在を考えられる。いずれにしてもT5東端部で盛土直下からVIb層が検出された段階で、古代の遺構検出面は削平を受けて消滅することになる。T1・2・3・6とT5の中央部付近で検出されたIVa・V層から切り込む落ち込みは古代の谷であり、中世以前には埋没している。T3で検出された谷はT4に、T5で検出された谷はT6にそれぞれ続くと考えられる。

古代の遺構は主としてT3・4の谷より西側のIVa・V層で検出した。遺構には径約40cm程度のものや、径約3mの覆土に炭化物が多量に含まれる大型の土坑などがみられる。これらの遺構の性格は不明であるが遺構付近で遺物がまとまりをもって出土している。T1~3のトレンチ東部では掘削深度が遺構面にまで到達していないが、T5・6検出の谷の西側においてもIVa層が確認でき、T7のIVa層で古代の土師器が出土していることからT2・3、T5・6検出の谷の間には遺構の存在が考えられる。T5・6の谷より東側については少量の遺物はみられるが、東側へ向かうほど削平の影響が強くなり、調査対象地の東端では遺構検出面が消滅している。古代の遺構検出面が残るとすれば、T7の中世の遺構検出地点付近までであろう。

中世の遺構はT7のⅢ層上面で検出された3条の溝、及び1個所の炭化物の集中地点であり、同地点より東側では圃場整備によって遺構検出面が削平を受けている。T1~4にかけてはⅢ層以下が残るが、遺物の出土も少なく遺構も見られないため、中世の遺構の広がりはほぼT7の遺構検出地点付近に限られると考えられる。

以上の所見より調査対象地内では古代、中世の2時期の遺跡の広がりが確認できる。古代の遺構については調査対象地東端部を除くほぼ全面約4,415m²にわたって広がると推定され、中世の遺構が見られるT7付近の約600m²の範囲では、遺構面が2面の重層となる可能性がある。

遺物は調査対象地のはば全面にわたって出土している。古代の遺物は主としてT5・6で検出された谷の西側に偏ってみられ、この谷より東側ではT7の遺構検出地点付近に中世の遺物が集中している。中世の遺物はT7の遺構検出地点出土の一部を除くとほとんどがI、II層からの出土である。古代の遺物はほぼ全てIVa層中からの出土で、特にT2・3に集中して見られる。遺物は細片となったものが多く、器種の識別可能な個体はごく僅かであり、写真図版に掲載した程度である。古代の遺物には須恵器・土師器・黒色土器、中世の遺物には珠洲・中世土師器がある。古代の遺物は上師器壺1・2の口縁形態及び糸切底土師器の存在から10世紀頃と考えられる。中世の遺物は出土量が少なく、ほとんどが細片となっているため時期は判然としない。

H S - 13 遺跡の南保地区では古代～中世の遺跡の広がりを確認できたが、今回の調査では調査範囲が限られたため遺跡の性格など不明な点が多く、これに関する年は来年度調査予定の長野地区的調査結果と合わせて考えてゆく必要がある。遺跡の名称は字名から竹ノ内II遺跡と命名した。

引用・参考文献

『入善町史』資料編1・通史編 1986・1990年

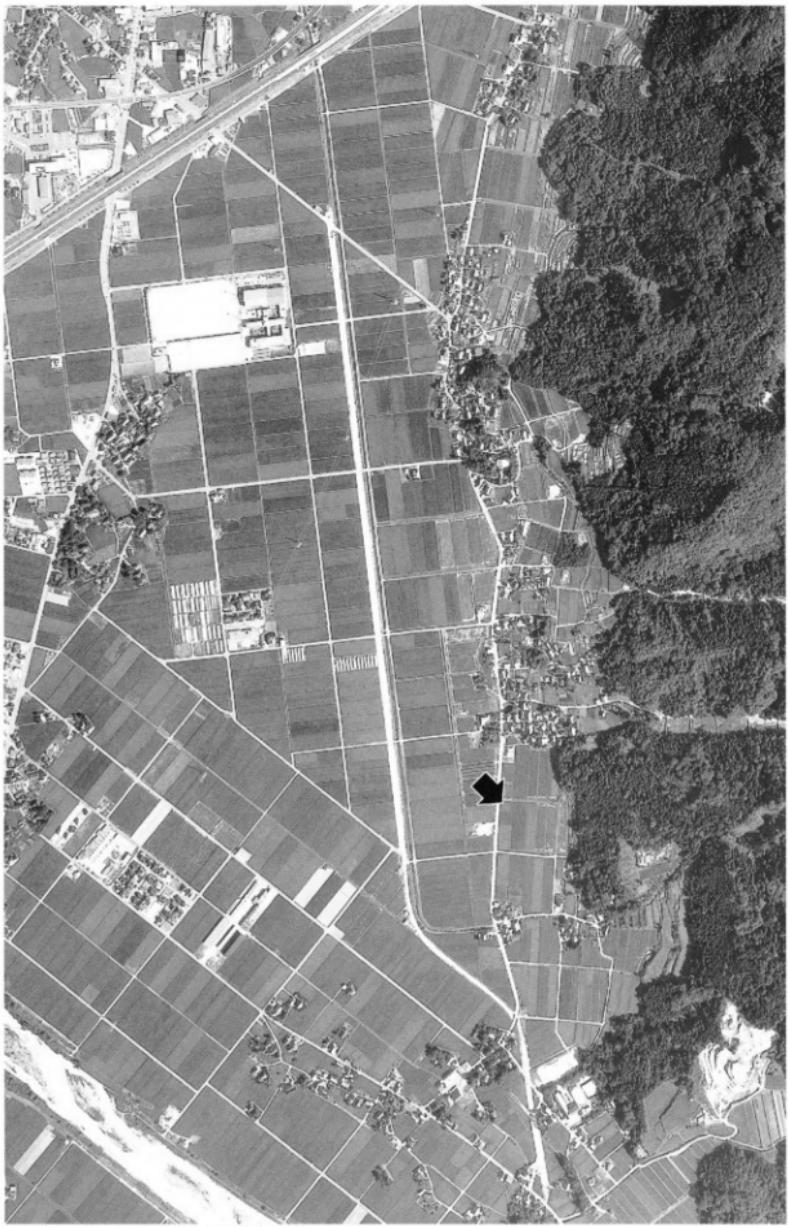
『朝日町史』1984

田嶋明人 「古代土器縦年輪の設定」「シンポジウム北陸古代土器研究の現状と課題」1988

「道下遺跡」「北陸自動車道遺跡調査報告 朝日町編」富山県教育委員会 1984



图版1 HS-13航空写真(1964年撮影)



図版2 HS-13航空写真(1988年撮影)



図版3 1.HS-11作業風景 2.HS-11T1全景 3.HS-11T5全景 4.HS-11T1
5.HS-11T2 6.HS-11T3 7.HS-12作業風景 8.HS-12T5全景



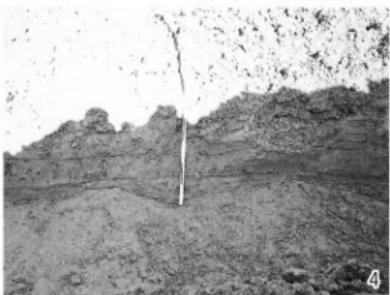
1



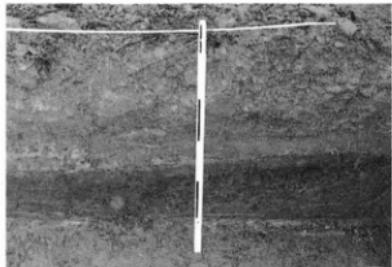
2



3



4



5



6

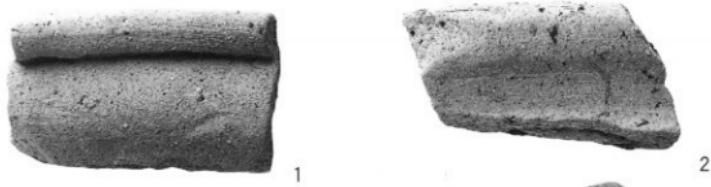


7



8

図版4 1.HS-12T1 2.HS-13作業風景 3.HS-13T3全景 4.HS-13T3 5.HS-13T7
6.HS-13T7Ⅲ層上面遺構 7.HS-13T3Ⅳa層上面遺構 8.HS-13T5Ⅳa層上面遺構



3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

図版5 出土遺物 T1(16) T2(1・3・9・10) T3(7・8・11・14) T4(5) T6(6・15)
T7(2・4・12・13) (写真中の番号は文中の遺物番号と対応)

報告書抄録

ふりがな	ほくりくしんかんせんかんけいまいぞうぶんかざいほうぞうちちょうさほうこく						
書名	北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告—HS-11・HS-12・HS-13—						
シリーズ名	富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告						
シリーズ番号	第12集						
編著者名	酒井重洋、三島道子、金三津英則						
編集機関	財団法人富山県文化振興財団 埋蔵文化財調査事務所						
所在地	〒930-0887 富山県富山市五福4384番1号 TEL076-442-4229						
発行年月日	西暦2000年3月31日						

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号	°'	°'			
HS-11	入善町小摺戸	3420	19	36° 53' 40"	137° 30' 26"	1999.11.17 ～ 1999.11.22	4,680 (対象面積)	北陸新幹線建設に伴う試掘確認調査
HS-12	入善町新屋	3420	18	36° 54' 21"	137° 31' 20"	1999.11.24 ～ 1999.11.29	3,420 (対象面積)	北陸新幹線建設に伴う試掘確認調査
HS-13	朝日町南保	3430	87	36° 56' 00"	137° 34' 30"	1999.11.10 ～ 1999.11.12	5,000 (対象面積)	北陸新幹線建設に伴う試掘確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
HS-11			なし	なし				
HS-12			なし	なし				
HS-13	集落	古代	土坑	須恵器・土師器		竹ノ内II遺跡とする		
		中世	溝	中世土師器・珠洲				

富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第12集
北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告

HS-11・HS-12・HS-13

編集・発行 財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所

〒930-0887 富山市五福4384番1号
TEL076-442-4229

発行日 2000(平成12)年3月31日

印 刷 能登印刷株式会社